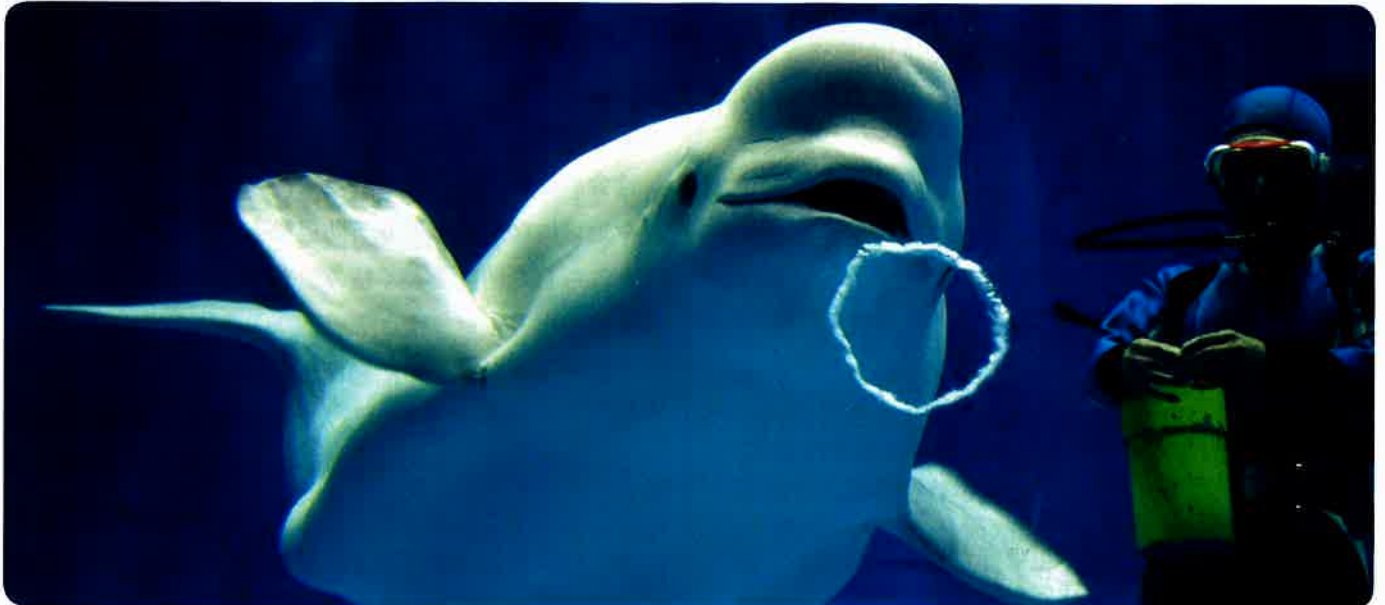




更女しまね

第3号 2016.12.1

島根県更生保護女性連盟 松江保護観察所内 TEL (0852) 21-3767



島根県立しまね海洋館アクアス「シロイルカ 幸せのバブルリング®」



更生保護女性会のさらなる発展に向けて

松江保護観察所長

國 府 実

平素、更生保護女性会会員の皆様には、社会を明るくする運動や保護観察対象者等に対する支援などを積極的に展開していただいています。また、青少年健全育成や子育て支援といった地域での様々な活動にも熱心に取り組んでおられる事に対しまして、深く敬意を表しますとともに、心から厚く感謝を申し上げます。

昨年は、多くの行事参加させていただきました。県連盟主催の一泊研修では、「地域における連携・協働活動について」のテーマで、主に会員募集や活動の積極化に向けた意見交換がなされました。そして、改めて活動内容を知らせる広報の大切さがわかりました。

また、愛の図書募金贈呈式では、会員の皆様が大変な御苦勞をされて集めた募金が、各施設でどの様に活用されたかを聞かせていただきました。皆様の御努力が本当に子どもたちや立ち直ろうとする人たちの大きな支えになっていることを知りました。

また、地区総会等では、講演・研修会の開催、地域の団体と一緒に活動されている様子を伺い感銘を受けました。

今年度、県連盟では、新たな試みとして幼児から児童を対象とした紙芝居を実施されています。素晴らしい提案をされました。地区会の活動や新会員獲得に向け活動の幅をさらに広げられると期待しています。

保護観察所では、「更生保護ボランティアの協働に関する三者宣言」を受け、更生保護団体同士の横の連携をさらに強化していくための協議会を開催して、皆様のお役に立てればと思っています。

更生保護女性会会員の皆様は、多くの経験と地域との繋がりをもっておられ、まだまだ素晴らしいパワーを秘めておられます。それをいかに発揮していくかで、人生の豊かさも違って来ると思います。是非一人一人が明るい社会作りのために、力を発揮していただきますようお願い申し上げます。今後もたゆまぬ前進を続けて行く更生保護女性会であって下さい。



「紙芝居」の活用を とおして

鳥根県更生保護女性連盟
会長 鐘築 章恵

今年の夏は酷暑に苦しみました。

月日の経つのは早く、平成28年も終わろうとしています。

ひときわ厳しい暑さの中での「愛の図書募金運動」「矯正施設等への支援」「子ども達の見守り」等一年間ボランティア活動ご苦労さまでございました。

リオデジャネイロで開催されましたオリンピック、パラリンピックでは素晴らしい成績を収めました。その人の持つ素質と想像を絶する練習量から生まれた成果だと思えます。

4年に一度しか味わえない感動を頂きました。

その一方で、また「障害者施設での殺傷事件」「中学生が集団リンチを受けての死亡事件」等痛ましい事件が発生しています。大変な自然災害も発生し、熊本、岩手、北海道の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、鳥根県更生保護女性連盟は、今年度の活動に「紙芝居」の活用を取り上げました。

平成27年度「中国地方更生保護女性会員研修」の折に広島県安佐南地区が平成26年度に「地域との連携協働活動推進地区」の指定を受けられた広島県安佐南地区の発表を聞いたことがきっかけでした。その内容は「紙芝居」を活用した取り組みでした。

犯罪や非行に陥る前に「犯罪に手を染めない子ども・非行に陥らない子どもを育てること」をねらいとし、実演にあたっては保護司の皆様も一緒になさっていました。

「保護司さんとの連携」や「子どもたちの健全育成」に向けての一つの手法として素晴らしい活動と思えました。私達もこの紙芝居を活用できたらとの思いから松江保護観察所から広島県更生保護女性連盟に繋いで頂き、了解を得て作成し、皆様の地区に紙芝居をお届けしました。作成にあたっては松江保護観察所に多大なご協力を頂きました。

この紙芝居を活用されたある地区では、紙芝居に登場する人物の配役をメンバーで決め実演され、子どもに感動を与えて意義深いものとなったようです。関係機関との連携もとれるようになったそうです。

出雲地区のある支部では、「ミミちゃんのとてとて」の一部分の文章に曲を付けて、歌ができました。それをCDに入れ、そのCDを焼き、16支部に配布し活用されています。

鳥根県更生保護女性連盟は、県を越えた活動で新しい活動のヒントを頂きました。

広島県更生保護女性連盟並びに安佐南地区更生保護女性会の皆様に厚くお礼申し上げます。

来年も健康には十分留意し、楽しみながらボランティア活動ができますことを念じています。ご協力よろしくお願い致します。



更生保護女性会に期待すること ～息の長い活動を続けることの大切さ～

松江保護観察所
企画調整課長 細木 直久

今年4月から企画調整課長として鳥根県更生保護女性会の皆様の活動をお手伝いさせていただくことになりました。なにとぞよろしくお願いいたします。

さて、更生保護事業は、様々な方々の温かい支援をもって成り立っておりますが、その中でも更生保護女性会の活動は、犯罪をした人たちへの立ち直りの援助や地域に密着した犯罪予防運動を展開されるなど工夫をこらした活動を長く積み重ねてこられたことについて感謝申し上げます。

更生保護女性会の活動は、他のボランティア活動と違い、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支え、そのような人たちへの偏見をなくし、一緒に地域で生活していくという「更生保護のこころ」を地域に広めるといふ他のボランティア活動とは異なる目的もあります。このボランティア活動を末永く続けていただきたいと思えます。

立派な活動を行ったとしても、それが一回限りの活動では、その活動は地域に根付くことはありません。息の長い活動を続けることが重要となってきます。

では、長く活動を続けるにはどうすればいいでしょうか。皆様の余ったお時間を、生活に余裕が出てきた部分を活動に充てていくのがボランティアだと言われております。ボランティア活動に時間を奪われ、その活動のために生活に余裕がなくなるとはいけません。そのような切羽詰まった活動をしていると、「せっかく〇〇してあげたのに」という気持ちが芽生えてくる恐れがあるからです。ボランティア活動に見返りを求めてしまってもはいけません。見返りを求めず、ご自身の善意を提供することが良きボランティア活動といえるでしょう。無理をしない、余裕を持った活動は、長続きするものです。

皆様の現在の活動はどうでしょうか。無理をしませんか。これからも長く続く地域に根差した更生保護女性会の活動を期待しています。

地域との連携・協働活動報告

地域で支える子育て支援…… 邑南町矢上郡山集落での取り組み

邑智地区更生保護女性会 会長 野田 律子

○郡山地域の現状と課題

- 1、少子化、高齢化、核家族化の中で、世代を超えた関わりやふれあいが少なくなり、ゆとりある子育てが難しくなってきた。
- 2、豊かな自然に恵まれていても、そこで育まれてきた郷土での食文化に触れる機会も少なくなっている。
- 3、色々な物があふれ、何でもお金で手に入る感覚が生きた生活感を失わせ、せつかくの身近な農業も子ども達には縁遠い世界となり、物事への感謝の気持ちが育ちにくくなっている。

上記のような現状と課題を踏まえ「郡山すくすく笑顔の会」を発足しました。最初は小さな畑のみでの活動でしたが、地域の方の賛同を得ることで、大きな畑を無料で貸していただくことが出来るようになりました。畑での作業も安定し、年間を通しての栽培や収穫、クッキングも可能となりました。

また、地域の方々の協力や知恵が沢山頂けるようになり、活動も定着していきました。

○主な活動内容

地域住民（青年部、婦人会、老人会）の方の賛同を得、協力のもとに次のような活動を実施しています。

- ①畑の整地、種まき、苗植え、収穫、クッキング、販売。
- ②季節に応じた伝統食と一緒に作り、会食。
春…ちらし寿司、カップ寿司、野草の天ぷら
夏…だんご、そうめん、おにぎり、バーベキュー
秋…焼き芋、ぬっぺ汁、さつま芋サラダ、大学芋、枝豆
冬…餅つき、ぜんざい、豆腐作り、恵方巻き寿司等
その他子ども達の要望に応じてクッキング。
- ③昔から伝わるおもちゃ作りや様々な遊びを体験し、ゲーム等の遊びで触れあい。

○「郡山すくすく笑顔の会」の特徴

小さな集落の活動ではありますが、子どもの人口も年毎に増え、0歳から小学生合わせて40人を越えました。

この会の継続、運営をしていくことは何よりも、地域に住む中高年の大人が、子ども達や保護者と関わって子育てを支援していこうとするものです。

その事による地域の活性化は大きなものが有り、今後、長く継続していきたいと思っています。



平成27年度 日本更生保護女性会員中央研修に参加して

大社地区 川上 清子

やや賑やかな声々の中にも、少し張りつめた緊張感が漂う会場……。東京、市ヶ谷私学会館で開かれた日本更生保護女性会員中央研修の開催直前の会場の雰囲気です。平成27年10月27日から3日間の日程で、全国50の都道府県から2名ずつ計100名の参加者でした。2日間の短い研修でしたが、緻密に練られたスケジュールは中身の濃いもので、テーマは「地域との連携・協働活動」でした。

開講式で、日本更女連盟の千葉景子会長と法務省の片岡弘保護局長のあいさつがあり、続いて、千葉会長から「地域の力を見つけよう」と題して講話がありました。ラグビー日本代表のワールドカップでの快挙、わけても五郎丸選手の活躍ぶりに感銘を受けたことを当時の盛り上がり方に考察を交えて話されました。日本代表の素晴らしいチームプレーを引き合いに出し、どんな活動をするにもお互いがそれぞれを理解し、認め合い、尊重し合ってこそ目標の達成が可能なのだと熱い思いを語られました。

更女会もチームプレーを発揮し、更生保護に軸足をおきながら、いろんな集まりに参加し、情報網を駆使して地域力を掘り起こし、楽しく「地域を編む」活動を目指

してほしいとのメッセージが伝えられました。

続いてお二人の講師から「更生保護活動の今日的意義」と「地域で支えあうためのファシリテーション」と題して講義がありましたが、それぞれに素晴らしい内容ですっかり引き込まれました。

2日目の午後から5部会に分かれて部会討議があり、研修を受けたばかりの“ファシリテーション技術”も使いながら、テーマに沿って熱心な協議が続けられました。参加者からは会員の高齢化や退会者等の悩み、地域の他団体との連携の仕方や協働活動の進め方等についての質問、紹介や提案など活発な意見のやりとりがありました。

参加者の多くが悩みや問題を抱えながらも前向きに活動を続けようとしておられる姿に共感を覚えると共に、研修を通していただいた成果の大きさに感謝でした。



平成27年度 更生保護女性会新会員研修に参加して

佐田地区 佐々木和子

平成26年度から新しく会員になりましたので、更生保護女性会新会員研修会に参加させていただきました。

会員になったと言ってもあまり活動もせず、会員とし

ての自覚も乏しかった私ですが、松江保護観察所國府所長様から「更生保護女性会に期待するもの」西江企画調整課長様から「更生保護の概要について」県更生保護女性連盟鐘築会長様から「更生保護女性会の活動について」の講演を聞き、更生保護女性会の様々な活動を知ることが出来ました。

人間関係が希薄だと、悩みがあっても一人で抱え込んでしまったり、悪い方向へ進んでしまいがちだと思います。その点、私の住んでいる所は普段から隣近所でお互いに声を掛け合う事が多く、地域でのつながりも深いと思っています。

そんな良さを活かして、更生保護女性会の目標である人間尊重とお互いに他を思いあい、連携しながらだれもが心豊かに生きていけるように少しずつ私にできる事をしていきたいと思っています。



平成28年度 “日本更生保護女性の集い”に参加して

平田地区 大谷 民子

6月7日、有楽町朝日ホールにおいて“第53回日本更生保護女性の集い”が開催され、参加いたしました。全国から500名の会員と50名の来賓を迎え盛大に行われました。

初めに、日本更女連盟千葉会長から「50年にわたる先人達の努力が礎となって今の更女活動があります。その賤産の上に更に地域の力となる新たな道を一步二歩と進めましょう」と、力強い挨拶の後、岩城法務大臣から100名に感謝状、日更女連盟会長から249名に表彰状授与がありました。法務大臣から「更女は重要な地域の力、世界に誇るべき存在である」と激励され、嬉しく思いました。

記念講演は、(有)野口石油社長による「信じ続ければ、応えてくれる」と題してのすばらしいお話でした。悪に手を染め、問題行動を起こして来た少年少女が、野口社長のガソリンスタンドで働くことにより、その手を働く手に変えて成長する姿を話され、心に響く講演でした。「立ち直りは18才までに」と、今までに135名の非行少年を雇用され現在従業員33名の内21名が元非行少年とのこ

とです。「職を持つことによって再犯はしない」と強い信念で、運転免許を取得させ、大きな返事と笑顔で相手を気遣う作法と姿勢を教え、責任ある仕事を与える等々、懸命に愛を注ぎ、立ち直りを支える野口社長に深く胸をうたれました。

「生まれつき悪い子はいない、親の責任は大きい」との言葉に、現在のストレス社会、メディア社会、格差社会の中で、精神的な悩みを抱える子供たちが多くなったことも要因ではないかと考えさせられました。

今回“女性の集い”に参加して多くのことを学びました。これを糧に明るい地域づくりのために更女の力を発揮したいと思います。



平成28年度 中国地方更生保護女性会員研修に参加して

松江地区 仙田 節子

平成28年9月15日、16日、鳥取ワシントンホテルプラザで開催された「平成28年度中国地方更生保護女性会員研修会」に参加しました。この研修は、中国地方の更生保護女性会の指導的立場にある会員が、更生保護ボランティアとして、地域活動に必要な知識や技術を習得することを目的とするものです。15日は、中国更女職建会長の主催者挨拶の後、中国地方更生保護委員会関口委員長の話「更生保護の基礎知識」はクイズ形式でとてもわかりやすかったです。続いて日本更生保護女性連盟千葉会長による「期待される更女活動」について次のような講話を聞きました。



活動事例発表
邑智地区 野田会長

- 一人ひとりが地域の中で、志と情熱を持ち自主的な活動をし、皆が求めている温かい社会作りに努めるようにする。
- 皆が生きられる社会作りは更女に与えられた使命でもある。再犯防止のために、「ほっとけない・ほっとかない」

という母の心を持って活動することが大切である。千葉会長の講話を聞き、更女活動についての認識を深めました。

続いて分科会協議に入り、三会場に分かれてそれぞれの課題について話し合いをしました。メインテーマは「更生保護女性会の活動を広げよう」です。私は第一分科会で、テーマ「更生保護団体間（保護司会・BBS会）と連携した活動の企画について」話し合いました。16日には活動事例発表、全体協議があり、関口委員長の話評を聞き、二日間の研修を終わりました。

研修に出席し、相互に学び合う機会があり有意義でした。今後は研修を活用し、良い所は参考にし、反省すべき所は改め地域に合った活動の場を広げていけるよう、更女会員が協力し実践して行きたいと思います。



平成27年度 島根県更生保護女性連盟一泊研修

平成27年度 島根県更生保護女性連盟一泊研修に参加して

玉湯地区 石川 咲子

10月26日（月）～27日（火）にツインリーブスホテル出雲にて開催された一泊研修に参加しました。

皇后宮御歌斉唱に続いて綱領唱和がありました。私たちは、綱領3番目の「私たちはあたたかな人間愛をもって明るい社会づくりのため行動します。」のこころを心にきざみ頑張っております。

島根県更生保護女性連盟鐘築会長の挨拶がありました。「暑さが厳しかったのに愛の募金お世話になりました」といつも私たち全員のことを心配して頂き嬉しく思いました。

講演は、松江保護観察所國府所長の「更生保護女性会の活動について」でした。明治、大正女性婦人部の方が更生保護の心をもって幅広く活動されたことにより、現在の更生保護女性会があり、慈愛の精神をもっていくためには家族の支え、地域の支援が重要とのことでした。

分科会のテーマは「地域における連携・協働活動について」でした。私が参加した第2分科会は、「更生保護女性会のPR活動」「会員の拡大方法」「女性会の組織強化の方法」についてでした。板倉副会長の司会で、各地区から一言ずつ活動報告がありました。共通の課題は愛の募金、会員拡大のむずかしさでした。それぞれにいろいろなイベントに参加して更生保護女性会のPR活動がされていてとても参考になりました。

玉湯地区は少人数ですが、これからも笑顔で心豊かに生きられる明るい社会をめざして前進していきたいと思えます。



27年度 島根県更生保護女性連盟一泊研修



県更女一泊研修に参加して

隠岐の島地区 会長 石橋 史子

1泊研修2日目には、益田市スクールカウンセラー 心の教育コーディネーターの稲田彰先生の講演がありました。「子どもたちとの出会いをとおして」という演題で稲田先生が、カウンセラーとして各学校を訪問され、その中で今の子どもが抱えている現状・問題点等をあげられ、その対処法などをお話されました。



多くの子ども達は明るく健全に育っているが、一方で自尊心が低く、耐性や社会性の弱い子が目立ち、メディアやネットへの依存など、子ども達が今抱えている問題点がたくさんあげられました。

保護者や教師が抱えている問題や社会的背景などの要因で、子ども達が日々生活することの大変さや、その中で実体験を通して社会性を養うことの大切さを伺いました。何より「ホンモノ」の人や物との出会いこそ、子ども達は感性が磨かれ、成長することになるのではというお話が印象に残りました。

子どもの自立を支援する大人の基本姿勢として、子ども達に人間としての生きることの意味や考え（人生観）について問い掛け、大人が揺るがぬ愛情や信念と自信を持って子ども達に接することの大切さを話されました。また、稲田先生がカウンセラーとして子ども達との出会いを大切に、温かく寄り添うお人柄をご講演の中でも伺い知ることができました。

この研修で、各地域の更女活動の現状・課題などがわかり、改めて更女活動の意義を知ることができました。

何よりもたくさんの更女の方と知り合うことができ、内容の深いとても有意義な研修会を終えました。

第 55 回 愛の図書贈呈式を行いました。

県更女「愛の図書」贈呈先

松江刑務所
島根あさひ社会復帰促進センター
美保学園

松江少年鑑別所
わかたけ学園
中央児童相談所

出雲児童相談所
浜田児童相談所
益田児童相談所

島根更生保護会
島根県女性相談センター

それぞれの思いのつまった世界に一冊だけの絵本
子どもにとって一生の宝



わたしの誕生日（3才児）



— 世界で一冊の絵本 —

子どもが作った絵本に感動

出雲地区更生保護女性会は、昭和40年代から毎年「愛の図書募金活動」を行なって保育園・幼稚園・小中学校へ図書券を贈っています。

子どもたちは図書券で購入された絵本を毎日読んでいます。

これによって育まれた感性から、素敵な絵本が生まれました。

出雲市大津幼稚園

曾田園長先生のお話

本を読むことによって、子どもたちには素晴らしい感性が育って来ました。だから絵本が作れました。いつも子どもに見えるところにこの本を置いてほしいです。

手術はこわくないよ（4才児）



“こころ一つに…” しまねの更女

お茶の接待

出雲地区 四絡支部 山代 恵子

四絡更生保護女性会は、10名の会員で、いろいろな活動を行っています。主な継続活動は、特別養護老人ホーム「もくもく苑」で、お抹茶をたてたり、煎茶、生菓子の接待をすることです。この活動は、平成3年ごろから、当時の更女石飛理事がコミュニティーセンターで地区のためにお抹茶の指導をしておられたことがきっかけで、はじめたそうです。

毎月第2月曜日、14時から15時半まで、入居者約50名を対象に行っています。「お元気でしたか」「おいしいお菓子とお抹茶ですよ。どうぞ召し上がってください



い」と一人一人に声掛けをしながら、接待を行っています。入居者の方の中には、たいそう喜んで「ありがとう」と手を合わせてくださる方もいらっしゃいます。また、「次のお抹茶はいつか」と尋ねられることもあり、心待ちにしてくださっていることが分かります。

私たち会員も入居者の皆様とすっかり顔なじみになり、健康を気遣うだけでなく私たちの家族の話をするなど会話が広がっています。長年、苑で使っているお盆がいたんでききましたので、コミュニティーセンターの活動費で購入していただきました。

入居者の方のためにと始めたこの活動ですが、喜んでいただけることが励みとなり、私たち会員にとっても楽しみの活動となりました。今後も継承していきたいと思います。



新一年生お祝い会

平田地区 久多美支部 福田真智子

久多美地区更生保護女性会では、毎年3月の末に「新1年生お祝い会」を開催しています。

特に、今年の4月には佐香小学校と久多美小学校が統合し「さくら小学校」と改名され、その最初の新入生ということで、記念すべき年となりました。

当日は平田地域のほとんどの保育所で修了式が挙行され、その終了後に親子で参加して頂きました。式典での緊張感から解放され気楽に和やかなひと時を過ごして

ほしいとの思いから内容にも工夫しました。

会員が演じる「大きなかぶ」の寸劇には、全員のお子さんが参加して、大きな掛け声とともにかぶを引き抜きました。また、ちらし寿司やすまし汁、フルーツの会食をとおして、友達や親子での楽しい交流が図られました。小学校で六年間使用する会員手作りの「マスク入れ」と「ハブラシ・コップ入れ」の巾着袋をプレゼントし、とても喜ばれました。

これからも安全で安心な地域づくりを目指すと共に“地域の宝”である子ども達の健やかな成長を温かく見守っていきたいと考えています。



ぬくもりの記憶

大社地区 杵築支部 宇家 昭子

杵築支部には、中学校と小学校各 1 校ずつと幼稚園保育園があります。

更生保護女性会の活動目標の 1 つに「子供達が健やかに育ち、犯罪の無い明るい社会を実現する」があります。その目標のもと、子育て支援として平成 14 年から取り組んでいる活動を報告します。

年度当初、ミニ集会で活動内容を話し合い、幼稚園保育園の要望をきき、布製手作りの「おもちゃ」「ままごとグッズ（野菜果物食材等）」「給食エプロン・帽子」「おんぶバンド」「布の絵本」や「スゴロク」等々製作をしています。30 名近くの会員が集まり、和気あいあいのうちに楽しんで作業を進めます。会員の中には得意な方が多数おられ、皆「待っていましたよ」と云わんばかり。2～3 日は集まって行い、その後は何人かで家に持ち帰り



仕上げています。出来上がった作品は、12 月のクリスマスプレゼントとして各園に会員数人で届けます。園児達はそれぞれ我先に手にとって満面の笑顔で喜びはしゃぎ、そのかわいい姿に会員一同感激し癒やされます。

保育園からクリスマス会に招待され、都合のつく会員が参加し、遊戯室で園児達と一緒にダンスや歌をうたいます。またサンタさんからプレゼントを戴いて楽しい 1 日を過ごします。



この他にも、支部内の有志でアルミ缶回収活動を行っています。この活動は、平成 13 年頃から始め、今年で 15 年目になります。集まった資金は、幼稚園保育園に「教材費」として贈り、とても喜ばれています。

幼児期に手づくりグッズで遊んだ思い出が温かい記憶として残ります。非行とは縁がない、元気で明るい子供達が育ち行くことを願いながら今後も活動を続けたいと思っております。

ふれあいレター

斐川地区 直江支部 原 邦子

斐川町直江地区には、コミセンを活動拠点にした直江絵手紙の会があります。

直江絵手紙の会は、ボランティアの会で、更生保護女性会もボランティアとして参加しています。

作品はすべて社会福祉協議会へ寄贈し、社会福祉協議会と郵便局が一体となり、高齢で一人暮らしの斐川町のお住まいの方に、「ふれあいレター」としてお届けします。

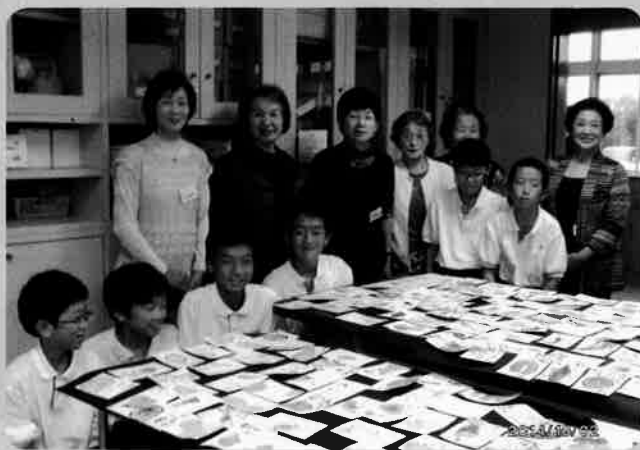


一枚の絵手紙に心を添える優しさと、福祉の心を伝え育てる活動を続けて 13 年。年間約 350 枚、今までに約 4,000 枚のふれあいレターを描き届けたこととなります。

夏休みこども絵手紙教室では、子供さんと楽しく描き交流をしたり、小学校、中学校に出前講師に出かけたりもします。中学校では、技法を教えると共に、福

祉の心を育て、ボランティアの大切さを伝えることに心がけています。生徒さんたちのふれあいレターへの関心は高く、とても真剣です。

これからも、和やかに、しなやかに、絵手紙ボランティアを続けていけたら幸せなことだと思います。



小学校へのトイレ掃除ボランティア

飯石地区 掛合支部 藤原 峯子

私達は雲南市の飯石地区掛合支部で、会員は29名です。

平成20年に小学校が統合し1校だけとなりました。

会員の1人が始業前の本の読み聞かせに行った際にトイレ掃除が話題になりました。そこで、更女会員が掃除の方法を児童の皆さんに教えてあげたらとの話がきっかけで平成27年の6月から始めました。月の第2と第4火曜日に2人程度のボランティアをしています。

特に低学年と掃除を一緒にする時には指導したりお話をしています。この様なボランティア活動はめずらしく、大変好評を



頂いています。

掃除時間は限られた短い時間ですが、出来る時に地区の回り立ちで続けていきたいと思っています。



おやつ作りボランティア

大仁地区 加茂支部 内田 啓子

加茂支部更生保護女性会では、子育て支援の一環として、子育てサロン「ぶちつくしっ子広場」でおやつを作りお茶会を行っております。この活動は十数年前から継続しています。

きっかけは、サロンに参加されたお母さん達が子ども達に手作りのおやつを食べさせたいけど、時間に追われつい市販のお菓みに頼ってしまいがちだという話を聞いたからです。

そこで、私達は、季節の野菜や果物を使い簡単に作れるおやつを提供し、旬の味を味わってもらったかどうかと話し合いました。又、行事にちなんだおやつを作り、日本の伝統文化を大切にしてもらいたいと思っています。

開始年 平成15年4月
 日 時 毎月1回 10時より
 年1回 新年お抹茶会 1月
 場 所 交流センター
 参加者 在宅の親子(祖父母)
 参加費 1家族100円

お茶会の前にはいろいろな活動をしています。(自由遊び・リズム遊び・体操・絵本の読み語り・育児相談等)

おやつを食べながらのお茶会は、なごやかで楽しい

ひとときです。日々の子育ての悩みや不安などを話したり、おばあさんから子育ての経験談を聞いたり、有意義な時間です。おやつの感想も「旬の野菜がおやつに生かせるのにびっくり」「レシピがほしい」「お抹茶は久しぶりでほっとする」等いろいろ聞かせてもらい、私達は嬉しく、今後の意欲につながります。これからも旬の食材を生かしておいしく健康によいおやつ作りに励みたいと思っています。



更生保護法人「しらふじ」でのカレー作り

松江地区 城北支部 内田 桂子

私たち城北支部は、平成15年の社明運動の一環として、更生保護施設「しらふじ」へカレー作りに行きました。それから13年間、毎月一回土曜日に、会員14名が2名ずつ交替で行っています。

私たちが作るカレーは、レストランで食べるような本格的なものではなく、どこの家庭でも作られている普通のカレーですが、入所者の皆さんにはとても喜んでもらっています。物心がついた時から母親がおられなかった入所者さんから、「これがおふくろの味だと思うことができた」と礼状を頂きました。

たかがカレー、されどカレー。私たちは、入所者の皆さんに母の味を感じてもらえれば、これ以上のことはありません。カレー作りを通して、母親の子どもに対する思いを少しでも感じとってもらえることができたらと思っています。2年前からは、「しらふじ」でバ



ザーが開かれる時に、40人から50人分のカレー作りの手伝いもさせて頂いています。

入所者の皆さんとは、城北公民館

の夏祭りの手伝いや大掃除の時に顔を合わせることもあります。何かのきっかけで人の道に背いてしまったとしても、残りの人生は更生して、精一杯生きてほしいと願うばかりです。



この施設の片隅で花をつける白藤は、家族に受け入れられない入所者の母親からの形見分けとして送られたものだと聞いて

おります。白藤に込められた母親の強い思いを感じとり、施設の名称も「しらふじ」と新しくなりました。

皆さんが社会に復帰されても、しらふじのカレーを母の味として思い出してもらえるように今後も続けていきたいと思っています。

「愛の図書」に願いを込めて

東出雲地区 板倉 靖子

「愛の募金」の協力をお願いして7月から8月にかけて地域の各家庭、事業所の訪問をします。現在は町内の1中学校、3小学校と幼稚園、保育園2園に「愛の図書券」の贈呈を行っています。

東出雲更女結成初期は、「愛の募金」を小学校への防犯ベルなどの防犯資金として児童の健全育成に役立ててきました。昭和51年からは町内小中学校へ「愛の図書代」として寄贈しています。この「愛の図書」寄贈は子供たちの健全育成の為に役立って欲しいという、先輩の皆様の熱い思いの結晶で、私たちもその思いを受け継ぎ、活動を続けています。

「先輩の熱い思い」を形にする方法はないか、「愛の図書」の有効な活用法はないかと話し合っていたところへ、贈呈先の保育園から「子供たちに読み聞かせを



してもらえませんか」とお話をいただきました。早速理事会で相談し、私たちの新しい活動として始めました。

保育園の子供たちが、まっすぐに絵本に目を向ける姿に、いつも心が洗われる思いがしています。そしてその姿に、この子供たちが決して非行に走ったり、誤った道に陥ることの無いようにと願わずにはいられません。

読み聞かせをする「更女のおばちゃん」の姿が、子供たちの心の片隅に刻まれ、大人になっても思い出のひとつとして残るよう願っています。



平成28年度 受彰おめでとうございます

平成28年6月7日に有楽町朝日ホールで行われた第53回“日本更生保護女性の集い”では法務大臣感謝状・日本更生保護女性連盟会長表彰状が贈呈されました。また平成28年11月16日に開催された島根更生保護大会では、中国地方更生保護委員長感謝状・中国更生保護女性連盟会長表彰・松江保護観察所長感謝状の授与が行われました。受彰されました皆様、おめでとうございます。

平成28年度被表彰者

○法務大臣感謝状

青木 薫代 (松江)
野田 律子 (邑智)

○日本更生保護女性連盟会長表彰

上田 正子 (海士) 渡邊 慶子 (伯太)
大谷 民子 (平田) 柳樂 利子 (多伎)

○中国地方更生保護委員長感謝状

23名

○中国更生保護女性連盟会長表彰

28名

○松江保護観察所長感謝状

142名



編集後記

百年に一度の…と、今年はことのほか多く耳にした気がいたします。想像を絶するいや想像すらできない災害と事件に驚愕し、恐怖を覚えた一年でした。

更女しまねには、地域に根差した継続活動を投稿していただいております。会員の地道な活動は、地域の皆様のつながりとひいては会員それぞれの心のよりどころに繋がるのではと感じます。

昨今の時世の中、心の通う更女活動により、皆様が穏やかな日々をお送りくださいますことを願いながら編集いたしました。

玉稿を賜りました松江保護観察所長様、企画調整課長様はじめ皆様に厚くお礼申し上げます。

江角 佳子

編集委員長 江角 佳子
編集委員 鐘築 章恵 野津イマ子 倉橋 裕子
樋野 淑美 杉山 悦子 高木禮為子
題 字 鐘築 章恵

